

D-27 室内の壁面の色彩が雰囲気および影響について
奈良女大家政 ○山根紀子 国嶋道子 梁頼彦子
ノートルダム女大文 花岡利昌

目的 室内の雰囲気に影響を及ぼす要因には様々なものがあるが、その中でも色彩が大きな役割を担っていることは種々の研究により明らかである。本報では、住生活の中でも特に心理的な安定を要求されている居間について、温度環境が異なる場合に、壁面の色彩が雰囲気にどのように影響を及ぼすかを検討する目的で実験を行った。

方法 広さ約10畳の居間の模型(1/10)を作成し、壁面は壁紙を貼ったパネルをさし込む装置とした。天井の色相はN-9.0、床はN-6.0と固定し、壁面の色彩はR、YR、Y、BG、PB、Pの6色相について、明度・彩度の異なるものをそれぞれ6色ずつ選択し、計36種とした。これらをスライドに撮映し、それを映写して被験者に室の雰囲気を、〈はげな一地味な〉などの16対のSD尺度で評価させた。環境温度は、10℃、25℃、40℃(湿度60%)の3条件とし、実験はすべて環境調節室で行なった。

結果 因子分析により3つの因子が抽出された。第I因子(Activity)は〈はげな〉などの楽しさと〈広々とした〉などの快活さの因子、第II因子(Evaluation)は〈上品な〉などの気持ちの良さの因子、第III因子(Warmness)は〈暖かみのある〉などの暖かさの因子である。数量化分析の結果、各因子に影響を及ぼす要因として、第I因子では明度、第II因子では彩度が大きな影響を持ち、それぞれ明度が高くなるほど、また彩度が低くなるほど評価が良くなる。第III因子では色相の影響が強く、暖色系がプラス要因となっている。湿度の影響は第I因子より第II・第III因子の方が強い。このように室内の雰囲気に影響を与える要因にはある程度規則性が見い出せる。